

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200154
法人名	有限会社 ウイズ・ケイ
事業所名	グループホーム あんど
所在地	愛媛県西条市桑村456番地
自己評価作成日	平成26年8月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人の人間として接し、喜怒哀楽が出せるように。又、いろいろな役割を持ち普通の生活ができるよう支援している。
 いろいろな事にチャレンジして、生き生きした表情で過ごせるようにも支援している。
 (和太鼓やハンドベル、フラダンス、演劇にも挑戦し、皆さんの前で披露している)
 常に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日のミーティング時に、職員が気付いたこと、改善点等について話し合われている。尿取りパッドをちぎってしまう利用者には、行為が発生する時間帯や頻度、様子を調べ、職員はサイズが合っていないことに気付き、サイズを見直して改善した事例がある。ハンバーガーのCMを見た利用者が「あれは何だろか?」「どんな味がするのか?」と話していたことがあり、食べてみることを計画された。利用者は、ハンバーガーを食べて「こんなもん初めて食べた。初体験じゃ」「食べさせてくれてありがとう」と喜ばれたようだ。
 かつて保育士をされ、紙芝居を読むことが得意な利用者には、みなの前で披露できるよう、現在、「みにくいアヒルの子」の紙芝居を作っておられる。家に帰りたい思いが強い利用者のご家族の中には、面会に行くことも辛くなった方のような方もあるが、ご家族の「一緒に外出したい、外泊させたい」という思いを実現することを目指し支援しているケースがある。まずは職員が間に入り、居間で面会することから始められ、現在は、居室にてお二人で落ち着いてお話しが出来るように支援しているところである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム あんど

(ユニット名) じぞう村

記入者(管理者)

氏名 楠橋 昌美

評価完了日

26年8月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「共耕共遊の里」を理念にしており、生きがいのある人生と一緒に過ごすことを目指している。職員は理念について理解しており、その為にはどんな介護、対応をしたらいいのか話し合っている。又、地域の方や来られた方にも理解してもらえよう玄関前の掲示版に掲示している。	
			(外部評価) 開設当初からの理念「共耕共遊の里」を、玄関入口の掲示版、事務所に掲示されている。月1回のミーティング時、理念について話し合う機会を持つ等して共有しており、職員は、理念を踏まえて「地域の方や皆で共に生き、利用者に生きがいのある生活を送ってもらいたい」という思いで実践に取り組んでおられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 中学校に出向き、高齢者や障害者の理解を少しでもしてもらえよう講義したり、福祉体験の実習の受け入れをしている。又、お花見や夏祭り等の行事では地域の皆さんとも交流をしている。時々、近隣の方が野菜を届けて下さる。	
			(外部評価) 法人代表者は、地域の中学校から依頼を受け、中3生を対象に「高齢者・視聴覚障害者について」講義をされた。その後、3名の生徒の職場体験学習を受け入れられ、その後生徒は、折り紙を折って遊びに来てくれることもあるようだ。事業所隣の畑の方が、野菜の収穫時期に折々の野菜をおすそ分けして下さる。お菓子作りの得意な地域の方が、イチゴ大福を持って来てくれたことがきっかけで、その後、利用者と一緒に桜餅を作ってくれださることになっている。毎年開催する夏祭りは「見たい・聞きたい・歌いたい」をテーマに、地域の方等、約80名の参加があった。利用者は、皆の前で練習を重ねた歌や太鼓を披露された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、認知症の理解や接し方の勉強をしたり、認知症の方の相談にアドバイスをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、現在取り組んでいることについて報告し、意見ももらっている。認知症の取り組みのビデオを観て意見を出し合ったり、「ノロウイルス」の勉強等もしている。	
			(外部評価) 会議には、自治会長・前、現、民生委員・介護相談委員・ご家族が参加しており、事業所からは、行事報告や利用者の状態を報告されている。又、「ノロウイルス」や「認知症について」の研修報告や勉強会を実施されている。民生委員の方から「足踏み餅つき機」があると声をかけていただき、餅つきの際には、事業所の広場に組み立ててくださった。利用者は「懐かしいね」と口々に言われたようだ。会議は、現在、午後7時から開催されており、ご家族の都合がつかないようだが、今後は、ご家族も参加いただけるような取り組みの工夫もされてほしい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、市の担当者や介護相談員も参加して下さっている。又、月に一度介護相談員が来訪し、入居者のお話をいろいろ聴いて下さっている。又、何か分からないことがあれば、市担当者の所に直接出向いたり、電話で尋ねている。介護保険更新認定の訪問調査もお願いしている。	
			(外部評価) 月1回、介護相談委員を受け入れており、訪問時には、1ヶ月前の利用者の様子と比べて「少し歩くペースが遅くなった」等、気付いたことを報告してくれている。4月に西条市からの「運営推進会議運営について」の通知を受け、行事と合わせた運営推進会議は実施しないことを会議時に報告された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会をしており、全職員が理解をしている。玄関やデッキの出入り口には施錠はしていない。入居者の状態をよく観察し、止めるようなことはせず見守りをし、違うことに目が向くような工夫をしている。職員間の連携もできており、その方のことを把握できている。	
			(外部評価) 玄関や居間からウッドデッキに出る窓は施錠せず、調査訪問時、居室を含め窓を網戸にされていた。居間には、職員が必ず1名はいて、見守りする体制を作っており、外に出ようとする利用者があれば、行き先を聞き、職員が付き添い支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については勉強会をしており、どうゆうことが虐待なのか話し合っている。代表者、管理者は、職員がストレスをためていないか、疲れていないか様子を観ている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) この一年で、学ぶ機会は設けておらず、一部の職員しか理解できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書や重要事項説明書については、時間を十分とって丁寧に説明しており、納得したうえで同意をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会は行事と合わせたりして、年4回実施している。その時に意見や要望を伺っている。又、来訪の少なめのご家族や遠方のご家族には、月1回お手紙を出している。ご家族の中にはお手紙でご自分の気持ちを書いて下さる方もいる。 (外部評価) 家族会は、年4回開催しており、7～8名の参加がある。ご家族同士でお話をするような場面も見られるようだ。利用者や職員の交換日記には、時に、ご家族が「認知症が進み戸惑いを感じている」「迷惑を掛けているのではないか」といった思いを書かれることもあり、話し合う機会を作ったようなこともあった。事業所便りは年数回作成してご家族に届けていたが、現在は、「写真が見やすいように」DVDにて送付されている。ご家族からは「母の楽しそうな顔がみれた」「嬉しくて涙が出た」等の声をいただいたようだ。外部評価実施後は、外部評価結果を送付されている。	毎月の手紙では、行事の様子等を中心に報告していたが、今後は、身体状況、食事、入浴等、項目に分けて利用者の状態を細やかに報告できるよう検討されている。今後もさらに、ご家族の要望や意見を具体的に引き出せるような工夫を重ねていかれてほしい。又、家族会で出た意見を運営推進会議で検討したり、運営推進会議での意見を家族会で話し合う等しながら、ご家族の会議協力を促していかれてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 自分達の意見、思いを出せるような雰囲気作りやコミュニケーションを取り、こちらの意見を押しつけないようにしている。毎朝のミーティングやいろいろな場面で職員に意見を聞き、話し合っ、どうしたらいいか一緒に考えている。月一回のノートやレポートにも自分の思いなどを書いている。	
			(外部評価) 毎日のミーティング時に、職員が気付いたこと、改善点等について話し合われている。尿取りパッドをちぎってしまう利用者には、行為が発生する時間帯や頻度、様子を調べ、職員は、サイズが合っていないことに気付き、サイズを見直して改善した事例がある。ハンバーガーのCMを見た利用者が「あれは何だろか?」「どんな味がするのか?」と話していたことがあり、食べてみることを計画された。利用者は、ハンバーガーを食べて「こんなもん初めて食べた。初体験じゃ」「食べさせてくれてありがとう」と喜ばれたようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得には全面的に協力しており、資格手当も支給している。代表者も介護に入っており、職員の苦労や悩みは分かっている。又、職員の苦労やストレス、悩みがないかよく観察し、疲労が蓄積しないような勤務表を作成している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内では、その時の状態に合った研修(コミュニケーションの取り方や食べるとゆう事等)をしている。又、急変があった時の対応もできるようにしている。職員の希望により外部の高齢者のレクリエーションの研修にも参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接を行い、ご家族や本人の状況や思いを把握し、本人が安心できるよう何日間か体験してもらっている。他の入居者達とも馴染むことができ、本人が少しでも不安なく入居できるようにとっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談や申し込みに来られた時に、困っている事や家族の思いをよく聴き、受けとめ、助言を行っている。必要に応じて専門医療機関への紹介も行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族にとってどうすることが一番望ましいか話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する、されるではなく、共に支えあい、寄り添って生活している。昔のことをいろいろ教えてもらったり、入居者からいたわってもらったりする場面もある。又、いろいろな場面で喜怒哀楽を出せるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 夏祭りやお花見、家族会などのときなど家族と一緒に過ごす場面を作っている。又、本人の様子や思いを手紙に書いて送っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔から利用している美容院に行かれている方や、ご家族とお墓参りや温泉に行かれる方はいる。事業所で看取った入居者のご家族には今でも年賀状のやり取りをしている。 (外部評価) 「お墓参りに行きたい」「自宅の仏さんが気になる」等、利用者からの希望はご家族に伝え、ご家族が対応してくださっている。かつて保育士をされ、紙芝居を読むことが得意な利用者には、みなの前で披露できるよう、現在、「みにくいアヒルの子」の紙芝居を作っておられる。家に帰りたい思いが強い利用者のご家族の中には、面会に行くことも辛くなったような方もあるが、ご家族の「一緒に外出したい、外泊させたい」という思いを実現することを目指して支援しているケースがある。まずは職員が間に入り、居間で面会することから始められ、現在は、居室にてお二人で落ち着いてお話が出来るように支援しているところである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の性格や関係性は把握しており、それぞれ孤立しないように席を決めている。よく、畳ベンチや居室にてお話されている。皆さん仲がよく、お互いに助け合い楽しく生活されている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 電話を下さる方や年賀状のやり取りをする方はいる。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、本人の本当の思い、希望を把握するよう努めている。又、職員との交換日記をしている方はご自分の本当の気持ちを書かれている。それを口頭や手紙にて家族に伝えたりしている。 (外部評価) 管理者は、日々の記録のあり方について「ご家族が読んだ際に利用者の様子が想像できるように記録する」ことを指導しており、職員は、利用者の言葉をそのまま書くことに取り組まれている。利用者の思いを知るため、職員と交換日記をしている方が現在2名あり、利用者は出来事やご自身の思いを綴っておられる。意思を伝えることが困難な方には、表情や仕草を観察し、腕を組んだり不安そうな表情が見られる時には、そっと声をかけて対応されている。昔から「太鼓を叩いてみたかった」という利用者の思いがきっかけとなり、みなで太鼓を練習して事業所夏祭り時は「あんど長寿太鼓」を披露された。利用者ご本人がリーダーとなって練習に励まれたようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族が来られた時にさりげなく聞いたり、日々の暮らしの中で本人に尋ねたりして情報を知ろうとはしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できる、できないシート、分かる、分からないシートを作成しており、それぞれに把握している。又、状態について毎朝のミーティングで話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族の来訪時に状態を説明し、家族の希望や意見を聞いており、本人にとってどうすることが一番望ましいのか考え、話し合っている。又、職員は日々の暮らしの中で、本人の本当の思いを知るようにしている。ご家族の中には、手紙にて気持ちを伝えて下さる方もいる。遠方の家族には、手紙や電話にて希望を聞いている。</p> <p>(外部評価) センター方式を基に事業所独自のアセスメント様式を作っており、毎年見直しておられる。ご家族来訪時や遠方の方には手紙で要望をお聞きして、計画に採り入れることに努めておられる。作成後は、1ヶ月半でモニタリングして、3ヶ月後に見直しされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別記録には、日々の様子や本人の言葉、状態、それに対する対応がよく分かるよう詳しく書くようにしている。水分量、排泄、睡眠状態など全ての職員が把握できている。又、状態や気づき等毎朝のミーティングで話し合っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況、希望により病院への送迎や受診など支援を行っている。又、その都度話し合い、臨機応変に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 毎年、湯ノ浦温泉で夏祭りを実施している。自治会長をはじめ民生委員の方々や地域の太極拳、フラダンスグループの方々にも参加していただいている。又、運営推進会議では意見交換もしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医への送迎をしたり、家族と共に同行し状態を説明している。提携病院への受診は、事業所で行っている。往診時、希望により家族と医師が直接話ができるようにもしている。服用してる薬や採血の結果等も報告している。	
			(外部評価) 週1回、協力医療機関の医師が往診に来てくれている。協力医療機関の看護師が24時間電話で対応してくれており、状態に応じて医師に連絡してくれている。受診は、状況に応じてご家族に付き添いをお願いしたり、管理者がご家族と同行して支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護者は常に状態を観察しており、何か変化があれば、すぐに提携医療機関の看護師に連絡をしており、24時間いつでも対応してもらえるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、本人の状態を詳しく口頭と文書で説明している。頻繁に見舞うようにし、家族や医療機関と情報を交換している。又、退院に向けての話し合いをしたり、本人とも関係が途切れないようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナル期、看取りの事例もある。随時、家族、本人、医師、事業所で話し合い、安心して最期を迎えられるよう対応している。いつでも会いに来れるよう柔軟な対応にしており、協力、連携も取れている。	
			(外部評価) 前回の外部評価実施後から現在まで、2名の利用者の看取りを支援されている。医師から終末期と診断された時には、ご家族に看取り支援の希望を聞き、その後は、状態変化に応じて話し合いながら確認をされている。看取りを支援した2名の方には、日中は、利用者の声が聞こえる居間の畳コーナーに布団を敷き過ごせるよう支援された。お香が好きだった方には、亡くなる数時間のあいだを穏やかに過ごせるように、ご家族がお香を焚く等しながら寄り添われた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回消防所の協力により、救急法の勉強はしている。夜間時の対応などシミュレーションをして勉強している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 訓練は年2回実施している。1回は夜間を想定した訓練を行い、連絡網を使った訓練もしており、意見も出し合っている。又、地域の消防団や近隣の方に協力をお願いしている。発電機を購入し、備蓄品を収納できるように、畳下に収納庫を作った。これから食料や飲料水などを準備していく予定である。 (外部評価) 年2回、消防署立ち合いのもと火災想定避難訓練を実施しており「避難時には火の回りを少しでも遅らせるために扉は閉める」「トイレの中等に人が居ないか確認する」よう助言があった。消防団の方には、災害時の緊急連絡網に加わってもらっており、又、運営推進会議メンバーにはいざという時の協力をお願いされている。居間の畳コーナーの床下には、新たに収納庫を作り、水・食料等の備蓄を用意されている。又、発電機も準備された。想定外のことも起こり得ることを考えて備蓄は多めに用意しており、代表者は今後、「非常食を地域の方達と定期的に試食する機会を作っていきたい」と話しておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人として尊重した対応をするよう心がけている。又、本人の気持ちを第一に考え、自尊心を傷つけない、自信につながるような声掛け、対応をしている。全職員、入社時に守秘義務についてはよく説明しており理解できている。 (外部評価) 法人代表者は「利用者のできることまで職員が行ってしまわないように」と指導されている。調査訪問時、職員が食器拭きを利用者にお願いする際には、「手伝ってもらってもいいですか?」と声をかけておられた。又、食後は、利用者の様子をうかがいながら「そろそろお部屋で歯磨きをしますか?」と声をかけておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側が決めたことを押しつけないで、自分の意志で決められるような声掛け、対応をしている。言葉を発することができない方には、表情や態度を見て、気持ちを汲み取るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れの中で、本人の希望を尋ねたり、様子を見ながら声掛けをしている。できるだけ一人ひとりのペースで生活できるように支援している。希望により本人の買い物(洋服など)や外食に行くこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その時の気分で、自分が着たい服を選んでもらっている。又、季節の話や気温の話をして、適切な衣類が選ばれるよう支援している。夏祭り参加の洋服の買い物では、本人が選び、それを着られている。言葉を発せない方には、様子をよく観て本人が快適に過ごせるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材を見て、料理の話をしてしながら献立を決めたりしている。又、調理の下ごしらえや、片付けなども一緒に行き、職員も同じテーブルで楽しく食事をしている。できるだけ旬の物を出すようにしており、郷土料理などは特に話はずんでい。ミキサー食の方にも、料理や食材の説明をしながら介助している。 (外部評価) 魚介類は代表者が、その他の食材等は管理者や職員が買い出しに行かれており、冷蔵庫の食材を見ながら利用者と相談して、献立を考え食事を作っておられる。調査訪問時、利用者は、キッチンカウンターでシメジを割く等、食事の下ごしらえをされていた。職員は、利用者と同じ物を食べながら、必要時に「手伝いましょうか」「食べづらいですか」と声をかけて、魚の身をほぐしたり骨を取ったりされていた。食後は、利用者全員がご自分のコップを流し台下げ、中には、台拭きや食器拭きする方も見られた。魚の塩焼きは、ミキサー食の方には食べづらいのため、甘めに煮付ける等して対応されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その方の病状やその日の状態も知った上で支援している。状態によっては、食事形態、調理法、量を工夫している。食べ方をよく観て、その場で形態を変えることもある。主治医の指示により栄養補助食品を使用している方も、それだけに頼らず何とか食事が摂れる様対応している。それにより、栄養補助食品が中止になった方もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者の状態に合わせて、口腔ケアの声掛け、誘導を行い、見守り、介助を行っている。プライバシーを配慮し、居室内洗面所ですてもらっている。又、残差物がないよう配慮しつつチェックしている。ご自分で口腔ケアが出来ない方には、口腔用ウェットティッシュでケアしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンはチェック表により把握しており、その方に合った声掛け、誘導をしている。本人の様子をよく観察し、さりげない声掛けをし、失敗した場合でも自尊心を傷つけないよう配慮している。できるだけ日中はトイレにて排泄できるよう支援しており、紙パンツから布パンツに戻した方もいる。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄記録表にて、時間帯や排泄回数等を把握し支援されている。ほとんどの方が布パンツやパッドを使用されている。夜間のみポータブルトイレを使用する方もおられる。夜間、失敗することに不安を感じ、何度もトイレに行き、寝不足気味な方には、安心して眠れるよう、夜間のみ紙パンツを使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で便の状態は把握している。個々に合わせ、起床時に冷たい水や牛乳を飲んでもらったり、ヨーグルトやバナナ、食物繊維の多い食事を出している。又、軽い運動をレクリエーション等に取り入れたり、腹部のマッサージをしている。	
			(外部評価) 2～3日に1回、入浴できるように支援されている。車椅子使用の方で、浴槽内での姿勢保持が難しいような方もいるようだが、管理者は「座位が困難でも本人が浴槽で温まりたいと希望があれば、職員数名で支援することは可能」と話しておられた。	入浴については、利用者の状態や希望、習慣、又、ご家族にも要望等をうかがいながら、利用者主体の「気持ちの良い入浴」に向けた支援に工夫を重ねていかれてはどうか。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく本人の希望に添うようにしたいが、無理な場合がある。暑い日が続いており、できるだけ汗を流してもらいたいと思っており、2日に1回は入れるよう支援している。お風呂の中ではご自分の事や思いなどよく話して下さっている。又、入浴後は、居室にて休めるようにしている。	
			(外部評価) 2～3日に1回、入浴できるように支援されている。車椅子使用の方で、浴槽内での姿勢保持が難しいような方もいるようだが、管理者は「座位が困難でも本人が浴槽で温まりたいと希望があれば、職員数名で支援することは可能」と話しておられた。	入浴については、利用者の状態や希望、習慣、又、ご家族にも要望等をうかがいながら、利用者主体の「気持ちの良い入浴」に向けた支援に工夫を重ねていかれてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一日の中でリズムはできており、個々の体調やペースで居室に横になられている。又、状態に合わせて、居室や畳にて体を休めるよう声を掛けている。規則正しく生活できており、皆さん夜間はよく眠られている。	
			(外部評価) 2～3日に1回、入浴できるように支援されている。車椅子使用の方で、浴槽内での姿勢保持が難しいような方もいるようだが、管理者は「座位が困難でも本人が浴槽で温まりたいと希望があれば、職員数名で支援することは可能」と話しておられた。	入浴については、利用者の状態や希望、習慣、又、ご家族にも要望等をうかがいながら、利用者主体の「気持ちの良い入浴」に向けた支援に工夫を重ねていかれてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があった場合は、連絡ノート、口頭で全職員が分かるようにしている。個別記録のファイルには処方薬の説明も綴じており、いつでも薬の目的や副作用が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方に合った役割はあり、なかなかできそうにないことでもお互いに協力しあっている。又、いろいろなレクリエーションも考え、楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) あんど公園にて家族も一緒におやつを食べたり、一緒に外出したりされている。7月の夏祭りでは、今治湯ノ浦ハイソホテルに皆で出かけ、家族や地域の方達と楽しい時間を過ごした。皆さんの前で、和太鼓や歌を披露している。又、希望により、洋服の買い物や食事に出かけたりしている。	
			(外部評価) 「服を買いに行きたい」等、利用者の希望をきっかけに外出しており、帰りにアイスクリームを食べたり、コーヒーを飲んで帰ることもある。年1回、事業所「夏祭り」を湯ノ浦ハイソで行っておられ、その際は、利用者全員で外出されている。	法人代表者は「車椅子使用の方やミキサー食の方は、日々の外出支援ができていない」と感じておられ、今後は、「ご家族に協力してもらいながら外出の機会を増やしたり、普段外出できていない方も出かけられるようにしていきたい」と話しておられた。ご家族や地域の方にも協力していただきながら、利用者の希望や個々の状態に応じた外出ができるよう、支援に工夫を重ねていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族との話し合いにより、原則的にはお金は持たれていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 居室内に電話を設置することができ、希望により家族とゆっくり会話ができるようにしている。年賀状は欠かさず書かれており、家族も喜ばれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用の空間では、安全に配慮した環境設備を整え、室温(ホール、居室、浴室等)にも留意している。夏場には簾を設置したり、デッキに出て季節感を味わえるようにしている。又、季節感のある壁面飾りを一緒に作成しており、その時期に合った飾り物(雛人形、五月人形、クリスマスツリー、笹飾りなど)をしている。椅子にも嫌な音がしないよう靴下を履かせている。</p> <p>(外部評価) 建物はL字型の造りになっており、居間からウッドデッキに出られる。ウッドデッキには階段とスロープがあり、事業所の広場に出ることができる。居間には窓から自然の光が入り明るく、日差しの強い日にはブラインドで調節されている。ウッドデッキには2匹の犬を飼っており、利用者は「昔、家でも犬を飼いよって好きなんじゃ、この犬は大人しくて可愛い」と居間から犬の様子を眺めながら話して下さった。居間の畳スペースには、利用者が剣山に活けた桔梗等の花が飾られていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室内で仲良く話しをしたり、廊下端の畳ベンチで何人かでくつろがれている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室に、ご主人の位牌を置かれている方がおられ、写真も飾られている。以前から使っていたタンスを持ってこられている方もいるが、殆どの方は、使い慣れた家具の持ち込みは少ない。以前から使っていた百科事典を持ってこられている方がおり、分からない事は調べられている。</p> <p>(外部評価) 居室には、自宅で使っていたタンスを持ち込んでいる方やテレビを置いている方もいる。タンスの上には最近生まれたひ孫さんの写真を飾っておられた。「皆に見られては恥ずかしい」と言って、自室でご自分のベストを編んでいる方や、解らないことがあるとご自分の百科事典で調べものをする方もある。ペットの枕元には、使いやすいようにティシュの箱を置いている方もあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとり「できること、できないこと」シートを作成している。職員は状態を把握しており、ミーティングで対応方法を話し合っている。その中で、少しでも自立した生活ができるよう声掛け、対応をして自信につながるようにしている。</p>	